

平成30年度 府立久美浜高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

| 学校経営方針 (中期経営目標) | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点 (短期経営目標) |
|--|---|--|
| <p>本校の歴史と伝統を踏まえ、校訓「意欲、克己、創造」の精神を培い、社会に貢献できる人材の育成を目標とする。</p> <p>1 総合学科の特色を生かし、社会で求められる力を育成する。</p> <p>2 地域の将来を担う若者力を育成する。</p> | <p>1 成果</p> <p>(1) 3年生がリーダーシップを発揮して学校祭などの行事の質を高め、全校生徒が充実感と達成感を得た。</p> <p>(2) 「京都フロンティア校研究成果発表会」など、学校外での発表の機会が増え、外部から評価されることにより、自尊感情を高めることができた。</p> <p>(3) 丁寧な個別指導が就職希望者全員内定、公立大学合格などの結果につながり、3年生全員が希望進路を達成した。</p> <p>(4) 地域創生推進校事業による地域に根ざした体験的な活動の推進により、キャリア教育を充実させるとともに、社会で求められる力を育成し、地域創生への意欲を向上させることができた。</p> <p>2 課題</p> <p>(1) 家庭学習時間の不足が最大の課題である。</p> <p>(2) 部活動加入率が前年度よりも低下した。</p> <p>(3) 例年参加している大きなイベントが中止となったことから、ボランティア参加人数が減少した。</p> <p>(4) 「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」「LHR」の内容を整理し、より計画的・組織的に実施する必要がある。</p> <p>(5) 中学生やその保護者から選ばれる学校となるために、広報活動をより充実させ、効果的な情報発信を行う必要がある。</p> | <p>1 家庭学習習慣を確立させ、希望進路実現につながる学力を身につけさせる。</p> <p>2 ICT活用と探究活動により、協働型課題解決能力・表現力を育成する。</p> <p>3 部活動・ボランティア活動等への積極的な参加により、自己の可能性に気づかせ、挑戦する姿勢を養う。</p> <p>4 地域に根ざした体験的な活動を深化させ、社会で求められる力を育成するとともに、地域創生への意欲をさらに高める。</p> <p>5 大学、研究機関、地元企業などと連携し、高度な知識・技術を習得するとともに、専門性の高い人材を育成する。</p> <p>6 効果的な広報活動により、本校に対する中学生並びに地域住民の理解を促進し、積極的な生徒募集に努める。</p> <p>7 平成32年度からの網野高等学校との学舎制スタートを見据え、各種準備を推進する。</p> |

評価は次のように表記しています。

A:十分達成できている B:ほぼ達成できている C:あまり達成できていない D:ほとんど達成できていない

| 評価領域 | 重点目標（取組の重点課題） | 具体的方策 | 評価 | | | 成果と課題 |
|------|-----------------------------|--|----|---|---|--|
| 組織運営 | 学舎制スタートに向けての準備 | ・学舎制スタートに向けて各種準備を進め、魅力ある学校づくりを推進する。 | A | B | B | 定期的に校内会議、網野高校との連携会議を重ね、準備を進めることができた。今後、進捗状況の報告や研修会の実施を通じ、学舎制スタートに向けて、教職員全体の意識を高められるようにする。 |
| | | ・網野高校と連携した取組を計画・実施する。 【網野高校と連携した取組年間5回以上】 | B | | | 回数の上では年間5回の連携を行うことができたが、生徒同士の交流については課題が残る。次年度以降、学舎制への移行を踏まえ、生徒同士の交流の機会を増やす。また、ICT機器を積極的に活用し、遠隔教育にも取り組んでいく。 |
| | 京都フロンティア校（地域創生推進校）事業の効果的な実施 | ・科目「産業社会と人間」の取組を通じて、地域とつながり、郷土愛を高めるとともに主権者教育を充実させ、地域に貢献する人材の育成を図る。 | B | B | B | 新たに丹後機械工業組合会社見学を行うなど、地域とつながることができた。さらに生徒のコミュニケーション能力や論理的思考力を伸ばすことが必要である。 |
| | | ・地元農家（本校卒業生）や農林行政機関、JA、大学等との連携を密にし、教育効果を上げるとともに地域に貢献する活動を行う。【年間15回以上】 | B | | | ほぼ計画通り実施することができたが、回数だけではなく、効果的に実施していきたい。 |
| | | ・地域の高齢者の活動に継続参加し、介護の実践力を高める。 【生徒1人あたり4回】 | C | | | 3回実施した。現2年生の学習意欲を引き出し、積極的な参加姿勢を育成することが課題である。 |
| | 安心・安全・快適な教育環境の整備 | ・日常的な安全点検の実施により、危険箇所を早期に発見し修繕を行う。 ・冷暖房に係る経費を確保し、教室の学習環境を快適に保つ。 【学校評価アンケートでの教育環境満足度70%以上】 | A | A | A | 安心・安全・快適な教育環境について、学校評価アンケートでは生徒の76.5%、保護者の81.1%から肯定的評価が得られた。引き続き安心・安全・快適な教育環境の整備に努めたい。 |
| | 教職員の働き方改革 | ・業務改善により、教職員の多忙感や負担感を減少させる。 【午後8時までの退勤50%以上】 | C | C | C | 4月～2月調査では、午後8時以降の退勤が月平均4回以下の教職員の割合は63%であったが、教職員の多忙感・負担感は改善されていない。スクラップアンドビルドの観点からも、行事の精選等を行わなければならない。 |

| | | | | | |
|-----------|--------------|---|---|---|---|
| 家庭・地域との連携 | P T A活動の活性化 | <ul style="list-style-type: none"> 本部役員・学級委員を中心に各種行事を活性化させ、参加者の増加を図る。 【年間来校回数5回以上の保護者50人以上】 | B | B | <p>来校回数5回以上の保護者は25人であった。行事への参加回数の目標は達成できなかったが、各学年では、学級委員を中心に魅力ある行事を企画し、多くの会員が参加して親睦が図れた。</p> |
| | 広報活動の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ホームページをタイムリーに、バランス良く更新する。 【特色ある行事や授業等について週7件以上掲載】 【全ての分野で月1件以上更新】 | B | A | B |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 学校広報紙「久美高だより」により、中学生・地域住民へ効果的な情報発信を行い、本校への理解を促進する。 【「久美高だより」を月1回発行、学期に1回新聞折り込み】 【学校情報メールを月1回以上配信】 | A | | |
| | 家庭とのきめ細やかな連携 | <ul style="list-style-type: none"> 迅速な対応と連絡、きめ細やかな情報交換により、各家庭とつながり信頼を深める。 | B | B | <p>年間平均すると、週7件のペースにはわずかに届かなかった。記事の掲載数については分掌、教科、部による偏りがあったので、次年度はあらゆる分野における発信の回数を増やす。</p> <p>「久美高だより」については予定通り発行できた。今後、内容の更なる充実を目指す。学校情報メールについては、他の方法を検討中である。</p> |
| 学習指導 | 授業規律の確立 | <ul style="list-style-type: none"> 授業規律を守り、共に伸びようとする集団を作る。 課題のあるクラスについて必要に応じて教科担当者会議を開き、教員全体で改善に努める。 【授業規律カード（授業における生徒指導報告用紙）による複数回指導0件】 | C | C | <p>学年部を中心に保護者への迅速な対応と連絡、必要な情報交換ができた。今後もきめ細やかな連携に努め、生徒の成長につなげる。</p> <p>授業規律カードによる指導件数を指すのではなく、規律カードを効果的に使った指導に切り替えた。全教員が一貫性を持って指導し、授業規律を確保したい。</p> |
| | 基礎基本の定着 | <ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本を重視し、生徒の実態に即した「わかる授業」を展開し、学力の定着を図る。 基礎学力補充により、きめ細かいフォローを行う。 【成績不振者0】 | C | C | <p>生徒の授業評価アンケートの「説明の丁寧さ」や「板書のわかりやすさ」という項目では、7月調査よりも12月調査の方が評価が高くなった。しかし、個々の生徒の状況を見ると、基礎学力の定着が十分でない生徒もいる。到達度の把握とつまずきの原因の分析を行い、具体的な改善計画を立てる。</p> |
| | 家庭学習時間の増加 | <ul style="list-style-type: none"> 家庭学習習慣の定着に向けて、各教科担当より家庭学習課題を提示する。 各教科担当が定期的に家庭学習状況をチェックする。 【調査前の家庭学習時間1日平均120分以上の生徒の割合50%以上】 | C | C | <p>調査により、調査期間中は、半数を超える生徒が1日120分以上家庭学習を行っていることがわかったが、調査前の家庭学習時間は伸びなかった。今後は、課題の提示・点検の方法を工夫し、家庭学習時間の増加を図る。</p> |
| | 授業改善 | <ul style="list-style-type: none"> I C T活用と探究活動により、協働型課題解決能力・表現力を育成する。 | B | B | <p>テレビモニタの活用も活発であり、教員のI C T活用は進んでいる。今後は生徒に活用させることが課題である。</p> |
| | 読書活動の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 公共図書館との連携により、多様な図書資料の提供及び授業支援を行う。 【生徒一人あたりの図書貸し出し冊数10冊以上】 | B | B | <p>公共図書館とは十分な連携ができている。また、授業等でも図書館の積極的な活用があり、最大限の支援を行うことができた。図書の貸し出し冊数は目標には届いていないが、府の平均値は上回っている。</p> |

| | | | | | | |
|--------|---|---|--|---|---|---|
| 生徒指導 | いじめや問題行動の防止 | ・ 日常の生徒の状況をしっかりと観察し、毎週1回アンケート調査を実施して、問題の早期発見、早期指導に努める。 | A | A | 毎週金曜日にアンケート調査を実施し、問題事象に早期に対応できた。 | |
| | 自立・自律した生活習慣の確立 | ・ 爽やかな身だしなみ、挨拶励行、整理整頓等の指導を通して基本的な生活習慣を身につけさせる。 【身だしなみ再点検10%未満】 | C | C | | 日常の改善指導、月に1回の身だしなみ点検、再点検、改善強化週間の取組を行った。その場限りの行動にとどまり、継続して身だしなみを整えることができない生徒がいたことが課題である。 |
| | 生徒の主体的な取組の促進 | ・ 1年生全員の部活動仮入部を実施するとともに、本入部する生徒の増加に努める。 【部活動加入率70%以上】 | C | C | | 新入生の仮入部率約90%、全体の加入率55%にとどまった。加入率向上を目標に努力したが、達成することができなかった。今後も継続して取り組んでいく。 |
| | ・ ボランティア活動への積極的な参加を促す。 【生徒数の2倍以上の参加（のべ人数）】 | C | ボランティア活動への参加人数はのべ360人（生徒数の1.5倍）であった。積極的に地域貢献できる人材の育成を今後も続けていかなくてはならない。 | | | |
| 進路指導 | 希望進路実現に向けての個別指導の充実 | ・ 生徒・保護者との面談を充実させるとともに、関係教員が連携し、適切な指導を行う。 【2・3年生との全員面談の実施、希望進路実現率100%】 | B | B | 3年生就職希望者への四者面談を夏季休業中に実施した。希望進路実現率は96%であった。2年生への面談は、調べ学習が終わった2月から実施した。 | |
| | キャリア教育を念頭に置いた計画的な進路指導 | ・ 「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」「LHR」の計画的・組織的な指導により、キャリア教育の充実を図る。 ・ 生産科学系列、福祉系列の生徒の関連分野への就職・進学を支援する。 | B | B | 全学年とも分野別説明会などを計画的に実施し、キャリア教育の充実を図った。2月には全学年でキャリア教育講演会を、2年生ではさらにマナー講習会を実施した。今年度は農業関係への進学・就職希望者がいなかった。教養系列で福祉施設への就職を希望する生徒に対して、インターンシップを実施した結果、就職内定を得られた。 | |
| 健康安全指導 | 健康で安全な生活を営むための実践的能力の育成 | ・ 保健室から健康情報を発信し、自ら健康管理できる生徒を育成する。【保健だよりの月1回発行】 | A | A | 保健だよりの発行はできたが、生徒に自ら健康管理ができる力をつけさせるところまでにはいかなかった。今年度は骨密度測定を実施し、健康管理を意識させることができたので、来年度以降も生徒が自分の健康について関心を持てるような取組を取り入れる。 | |
| | | ・ 食育を推進して、朝ごはんを食べる習慣を身につけさせ、食品の成分を考えながら食事を選択できる力を育てる。 【食育キャンペーンの実施】 | B | | | 予定どおり実施できた。若者の総摂取カロリーが戦後より少ない現状の中、生徒が作りたいと思うメニューの考案・実践可能な作り方の調査が課題である。 |
| | | ・ 「時を守り、場を清め、礼を正す」を合い言葉に、美化・清掃活動の指導を行う。 【清掃キャンペーンの実施】 | A | | | 2学期に2回実施した。さらなる環境美化につなげるために、次年度は小さなキャンペーンを年に何度も行う。 |
| | 教育相談生徒に関する情報交流並びに教育相談会議の充実 | ・ 生徒の状況について、教員間の情報交換の機会を増やし、スクールカウンセラー及び専門機関と連携した教育相談を進める。 【教育相談会議の定例開催】 | A | A | 教育相談小会議の日程を成績指導連絡会議の後に設定することにより、定例開催できた。生徒への適切な支援につなげるため、会議前の情報集約を徹底する。 | |

| | | | | | | |
|------|---------|--|---|---|---|--|
| 人権教育 | 人権教育の構築 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で人権学習に取り組み、人権教育の構築を図る。 ・基本的人権を侵害する行為に対し、全教職員が毅然とした態度で指導し、すべての生徒が安心して学校生活を送れるようにする。 【教職員研修の実施】 | B | B | B | 同和問題をめぐる現状と課題、子どもの貧困対策についての教職員員研修を1回実施した。学校全体で取り組む前提として、教職員の人権意識をあらためて見直す機会となった。 |
| | 人権意識の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・「LHR」「総合的な学習の時間」等を活用した計画的な指導により、生徒の人権意識を高める。 | B | B | | 次年度は、3年間を見通し、生徒の実態に合った人権教育を計画する。 |

| | |
|-------------------------|---|
| 学校関係者 評価委員会 による評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・松林再生の取組や観光パンフレットの点訳などをおして、地域から学び、自分の力を地域に還元しようという気持ちが育っている。 ・専門的なことを学んで戻ってきて、地域に貢献してほしい。 ・久美高研究発表会「寄せN.A.B.E.」を参観して、学校がどのような取組をしているのかがよくわかった。 ・現代の子ども達はスマートフォンやコンピュータの操作は得意だが、人間対人間のコミュニケーションに課題がある。コミュニケーション能力や自己を表現する力を伸ばしてほしい。 ・子どもの教育レベルが親の所得によって左右されることのないようにしてほしい。 |
|-------------------------|---|

| | |
|-------------------|---|
| 次年度に向けた改善の 方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習習慣を確立させ、希望進路実現につながる学力を身に付けさせる。 ・全教職員が共通認識の下で一貫性をもって指導し、規範意識の醸成と健全な生活態度の育成を図る。 ・部活動やボランティア活動への参加率を向上させ、活動の場を広げて自己の可能性に挑戦させる。 ・学舎制や学科改編に向けて、教職員の準備組織を再構築し、全員参画の取組を検討する。 ・効果的な広報活動により、本校に対する中学生並びに地域住民の理解を促進する。 |
|-------------------|---|